

Good シナリオとしての Society5.0 の実現へ

平成 30 年 4 月 12 日
東京大学 五神 真

- 本年のダボス会議での Global University Leaders Forum (GULF) メンバーとシュワブ会長との懇談において、会長から第四次産業革命は確実に到来すること、その上で、今議論すべきは、それが人類社会にどのような価値をもたらすかであるという問題提起があった。
- まさに今が、第 4 次産業革命が人類を良い方向に導くか、悪い方向に向かうのかの分水嶺にある。良い方向に向かうためには、強い意志と戦略を持って、それを選び取らなければならない。
- 日本の「Society5.0」の議論は、スマート化を通じて、都市と地方、男女などのあらゆる格差を乗り越え「インクルーシブな社会」を目指すという、良い方向へのシナリオを示したもの。日本はこの議論で先行し、優位性を持つ。科学技術イノベーション、社会システム、経済メカニズムの変革を三位一体として駆動し、日本がこの良いシナリオの実現を先導しなければならない。
- 大学は総合的な知識基盤や高度な情報通信インフラ、人材ネットワークを有する。テクノロジーの力で社会課題の解決を目指すベンチャー等をサポートし、社会実装へと導くプラットフォームとして機能させるべき。既存のストックを最大限に活用し、効果的な追加投資を行うことで、大学を基盤とし、様々な主体がアイデアを持ち寄って社会課題の解決に挑む Good シナリオとしての Society5.0 を実現するエコシステムの形成を目指すべき。
- エコシステムを支える資金循環の再構築も必要。海外資金等も活用して、知識やアイデアに投資が集まり、様々なチャレンジ、再チャレンジを許容するような資金サイクルを生み出すべき。

以 上